



## 座右の銘

「ざゆうのめい」と読み、常に自分の心に留めておいて、戒めや励ましとする言葉を意味しています。そして、今、全国の書店で古今東西

の名文句やことわざ等を集めた『座右の銘』なる本が爆発的に売れているそうです。

■ 「本当はやりたかったけど、事情でできなかった」という言い訳は、その程度の情熱しかなかったのだ。

「本当はカメラマンになりたかったけど、家庭の事情でなれなかった」「本当は留学したかったけど、親が病気になって涙をのんだ」と言う人が多い。所詮、それは、自分を慰める言い訳に過ぎない。そういう人たちは、好条件に恵まれた人間だけが夢を実現したと思っているのだ。夢を実現した人たちは、どんな事情があってもやりたかった人たちであり、実現できなかった人たちは、それぞれの事情を乗り越えてまでやる情熱がなかった人たちののだ。

■ 世界で一番カッコいいのは、「まちがった」と言える人だ。

人生で、まちがわれない方法があります。まちがった時に、「あっ、まちがった」と大声で言うことです。できれば、明るく宣言しましょう。「まちがった」と言えないから、辛いのです。自分が「まちがった」と認めることは、これほど恥ずかしいことはありません。でも、「まちがった」と私が言おうが言うまいが、私がまちがったことは、もうみんなにわかっているのです。「まちがった」と言うのは、みっともないことではないのです。

※「運を味方にする達人」「中谷彰宏名言集」(中谷彰宏)より

さて、体育祭まであと一週間。しかし、今日は雨。朝練も肩すかしを食らいました。組立やダンスの練習も運動場でできません。そして、天気予報も曇りや雨マークが目立ちます。完成するかどうかが不安になる人もいるでしょう。でも、「春の体育祭は、練習時間がなかったから仕方ない」で終わらせたくはありません。それを言い訳にしたくはありません。「練習時間がなかったのによくそこまで…」と言わせるためにも、今できることを精一杯やりましょう。(同じようなことが3年団通信『共に』にも書かれています)

また、中間テストが終わり、答案用紙が返されています。大切なのは、できなかったところを「わかった」と言えるようにすることです。まちがいを素直に認め、次に生かすことが大切なのです。



## 恒例のテングサ取り

5月19日午後5時、生徒たちが中間テストの勉強にがんばっている(と思われる)頃、本校の教職員も大浜の海で、毎年恒例のテングサ取りにがんばりました。今年は、香川さん、森上さん、曾根さん、和崎さんの調理員に加えて、田井先生、永井先生、関先生も参加し、総勢7名で行いました。

水にさらし、天日乾燥を繰り返し、退色して白色になったものを乾燥させると、寒天やところてんの原料となります。もちろん、これを使った給食のメニューも今後登場します。楽しみにしてください。

